

新年、あけましておめでとうございます。本年も職員ともども、どうぞよろしくお願いいたします。

▼先月 10 日に網走漁協の会議室をお借りして、今年度のホタテガイ担当者会議を開催しました。宗谷・網走・根室管内の漁協や水産指導所、オホーツク総合振興局水産課、熊本大学、新潟大学、東京農業大学、道総研工業試験場、中央水試、栽培水試などから 50 名以上の参加をいただきました。網走水試からは現在取り組んでいる「ヒトデ類被害対策事業」と「ホタテガイ高精度資源量推定技術の実用化試験」について、各事業の狙いや進捗状況を紹介しました。また、高精度資源量推定事業では事業内容とは別に一昨年 12 月に発生した低気圧によるホタテガイの被害を海底画像から検討した結果を紹介しました。ホタテガイは沖から岸に向かい数百メートル間隔で周期的な分布を示し、ある水深帯では全く分布が見られず、他の水深帯では寄せられた貝が折り重なるように集中して分布している状況が見られました。強い波浪によるホタテガイの移送が想定されました。

▼栽培水試からは今年度から始まった「ホタテガイ採苗安定化技術開発（人工採苗技術の開発）」についての報告がありました。道内では毎年約 31 億個体もの放流種苗が天然採苗により生産されていますが、人工採苗でこれだけの数を生産することは非常に困難です。事業の目的は種苗の水温や塩分耐性、稚貝の取り扱い方法など、天然採苗における問題点を人工採苗技術を通じて解決したり、将来的には遺伝的な研究により耐病性や高成長・高品質なホタテガイの育種の基礎技術となることをめざしています。今年の試験では卵から幼生・稚貝に至るまでの生残割合などが実験室内で推定され、どの成長段階で減耗が大きいのかを検討されていました。

▼熊本大学からは高精度資源量推定事業のうち海底画像から画像解析によりホタテガイを計数する技術開発の進捗状況を報告していただきました。最初に海底が砂地であるか礫であるかバラス場であるかを画像解析で判断し、その後それぞれの底質別にホタテガイを検出することにより、さらに検出精度が上がったこと。また、海底の動画像から 3 次元形状を推定する技術、空撮画像による海中の藻場の把握技術、水棲生物の画像解析による計測技術などの紹介もありました。

▼各漁協や水産指導所からは今年度の採苗状況や生産状況について、春先の高水温により採苗時期が例年より 2~3 週間早かったこと、一昨年 12 月の低気圧の被害により生産量は前年に比べ減少し、さらに翌年の水揚げにも影響するなどの報告がありました。最後に中央水試から次年度の新規事業として「ホタテガイ漁場の時化によるハザードマップの作成」を検討しているとの報告がありました。今後予算化され、研究の成果が対策などに活用されればと思います。今回の会議での情報交換が少しでも各浜での問題解決のヒントになることを期待しています。（網走水試 上田）